

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回社会教育委員会議
開催日時	令和7年9月25日（木）午後3時00分から午後4時30分まで
開催場所	戸田市役所 3階 教育委員室
委員長等氏名	社会教育委員会議 委員長 宮地孝宜
出席者氏名 （委員）	宮地孝宜、佐藤勝巳、板橋哲、阿部央憲、大森雅彦、稲垣茂、大野織絵、 加藤ちあき、高松麗子、山本学
欠席者氏名 （委員）	熊木保衛、中村英美
事務局	石橋課長、中沢課長、富田主幹、安永副主幹、徳永主事、向後主事補
説明のため 出席した者	なし
議 事 等	議事 （1）「戸田市生涯学習推進ビジョン」の策定について 報告事項 （1） 令和7年度講座実施状況について （2） 家庭教育支援動画について
会 議 結 果	別紙のとおり
会議の経過	別紙のとおり
会 議 資 料	・ 次第及び資料一式
議事録確定	令和7年11月5日 社会教育委員会議 委員長 宮地 孝宜

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	委員の過半数の出席があり、「戸田市社会教育委員の会議に関する規則」第4条第4項により、会議が成立することを報告申し上げる。
事務局	次第1 開会 次第2 委員長あいさつ 次第3 これより報告事項及び議事に入る。 議事の進行については、「戸田市社会教育委員の会議に関する規則」第3条第3項に基づき、委員長にお願いする。 ※議事に入る前に傍聴人はいない旨報告。
委員長	資料に基づき議事1について、事務局から説明願いたい。
事務局	議事1 「戸田市生涯学習推進ビジョン」の策定について 概要：戸田市生涯学習推進ビジョンの策定について説明
委員長	それでは、事務局から提案のあった検討事項2点について順次伺う。 1点目、7ページにある4つのキャッチフレーズについて、手元にある名簿順で伺っていききたいと思う。
委員	前回の会議でも話したが、非常にすっきりした感じをどのフレーズからも受ける。 個人的には、短く言い切る方が分かりやすいという思いがあるので、D案を選ぶ。
委員	どの案も全体的にコンパクトにまとまっていて素晴らしいなと思った。 私も4つの中ならD案を選ぶ。 キャッチフレーズは短くまとめて、下に説明の文章がある方がわかりやすいと感じた。
委員	キャッチフレーズということで短い方が良いというのが意見なので、Dを選ぶ。

委員	自分はこの中だと C が良いと思った。
委員	学びの輪と市民の和と兼ね合わせるのは最初のインパクトが強いと感じたので、C を選ぶ。 漠然とまとめるのではなく、初めて知る人もいるだろうと思って、このようなキャッチフレーズが良いと思った。
委員	ざっと見たときに生涯学習なので「学び」という単語が来ると凄く入りやすいかなと思い、なおかつ「わ」や「とだ」が平仮名な所が見やすいので C を選んだ。
委員	私も C 案が良いと思う。とだが平仮名なところ、3 つの“わ”が何かが分かるのか一目でわかるところがポイントで選んだ。
委員	私は A 案のような「みんな輝く 3 つの“わ”」のような大きいキャッチフレーズが最初に来て、その後に説明が来るパターンの方がいいと思う。 あとそれぞれの輪、和、環にルビがあった方がわかりやすくなると思う。
副委員長	D 案を選ぶ。 最初にキャッチフレーズを出して、次に説明が来る方がわかりやすいと感じた。 一つここにはなかったが、みんな輝くというのを重要視すれば、A 案のみんな輝くを最初に持ってきて、その次に 3 つの“わ”のフレーズを持っていくのもいいのかなとも感じた。 3 つの“わ”のフレーズは、今まで生涯学習推進計画でも言っていた、学び、つながり、広がりというものの言い換えだと思うので、このまま踏襲していくのがいいと感じた。
委員長	C 案、D 案を選ぶ声が委員の中で多かったが、参考までに事務局の方でこれらを作った思いはあるか。
事務局	優劣はないが、例えば A と D はどちらかというところとキャッチーにするところに重きを置いて作成し、B と C は 3 つの“わ”によって、みんな輝くという流れに重きを置いて作成した。

委員長	何か追加で御意見等があれば伺いたい。
委員	キャッチフレーズの下に学び、市民、支えと、それぞれ赤と青と緑の色の四角で表し、それを右でまとめてみんな輝くと表現しているが、みんな輝くの前にある白い四角が邪魔に見えるように思う。
事務局	この白い四角には意味があり、赤と青と緑はいわゆる光の三原色で重なったら白く見えるので、白の四角で表現した。
委員	口とかに見える人もいるかもしれないが、そのマークをどうするかは事務局の判断に任せる。
委員長	3つの“わ”と聞いて、インパクトはあるがその“わ”の部分の意味が分かりにくい部分もある。 “わ”と“わ”のつながり部分が分かりにくいと思うので、あえて学びの輪、市民の和、支えの環、という文章を先に出すというのも良いかと。 フレーズとしては、シンプルでいい面といきなり輪と言われたところで響きにくいという面もある。一方で長くなっても伝わりづらくなるし、ルビがないと読めないという部分も出てくるかもしれない。 とだが平仮名で書いてあった方が良いというのは、なんとなく委員共通認識だと思う。 数もそうだが、C案かD案が今のところフレーズの候補かなと意見を聞いて感じた。
副委員長	C案のフレーズを逆にする、つまり、3つの“わ”でみんな輝くという文章を先に出し、後ろに学びの輪、市民の和、支えの環という説明で前後を入れ替えてみるのはどうか。
委員	A案といったが、今の話を聞くと、そのC案に変更を加えたものがイメージに近い。
委員	3つあるということを強調しているとも取れる。 3つの“わ”でみんな輝くとだ～学びの輪、市民の和、支えの環～という

	フレーズで反対意見のある人はいないか。
委員	ちょっとずれるかもしれないが、キャッチフレーズを今の入れ替えたものにしたとして、例えば基本方針を見ていて思ったのが、キャッチフレーズの所に概念となる図を持ってきても良いかもしれない。 そうするとこのキャッチフレーズが多少長くても、違和感があまりないと個人的に感じた。
委員	例えば、光の三原色の図になっている部分を大きくして、その中に説明文を入れるということか。
委員	べた塗りに白抜き文字ではなく、今のような円っていう感じではなく、リングのようなオリンピックのロゴのようなイメージである。
委員長	これがこの形態だけではなく、文字だけで他の場所にキャッチフレーズだけで掲載されることもあるのか。
事務局	キャッチフレーズだけが掲載されることも考えられる。
委員長	キャッチフレーズとしては、今出た意見で「3つの“わ”でみんな輝くとだ～学びの輪、市民の和、支えの環～」という形で進めてよろしいか。 目指す姿の表し方だが、目指す姿は学びや活動により人生を豊かにし、それがそれぞれの“わ”に対応していくことなので、これをどう表すかは検討していく形でよろしいか。 また、目指す姿の右にある文言はこれで固定なのか。今までの議論も踏まえて御意見ある方はいるか。
副委員長	学びの輪、市民の和、支えの環というフレーズだが学びの輪というのは、学びや活動によりっていうこの文言への、生涯学習という言葉にこれに置き換えながら使うということだと思うのだが、市民の和の文言、広がる市民のつながりと言われて、市民は何が広がるのかわかるのか。 抽象しすぎている感じもあるので、生涯学習という言葉をつけて、生涯学習をすることによって市民同士のつながりができて、それが地域に還元さ

	れていくというようなイメージでいくのはどうか。
事務局	それでいうと基本方針としてそのストーリー的に流れを示している。 方針2でいうと、例えば学びや活動で仲間を見つける、それによって様々な価値観を知って認め、自他共に成長する、それによってゆるやかなコミュニティが形成され、居場所をつくっていき、最終的にはつながりが形成拡大されていくというストーリーになっている。 この和というのがいわゆる和を以て貴しとなす的な意味で採用している。
委員長	学びや活動により広がる市民のつながりみたいな、学びや活動といった言葉をどこかに入れることはできないか。
事務局	全部学びや活動だが、何回も出てくるとしつこくなってしまうので控えた所だが、可能である。
委員	少し言葉を変えると、具体的にイメージしやすいかなと思う。
委員長	私が使っている生涯学習のテキストの副題が「学びが紡ぐ新しい社会」となっている。例えば「学びが紡ぐ市民のつながり」など、そういった紡ぐという言葉を入れてもいいかもしれない。 何か学びが紡ぐ、創るという単語も入れてもいいかもしれない。 3つ目の、支え合ういきいきとした地域という文言をどうするか。 支えの環のところは、学習成果を生かして、地域をいきいきとする、あるいは学習成果をいかして、活性化する地域をつくるというイメージを感じた。 知識スキルにいかすのだから、支え合うといったときに何をもって何で支え合うか、学んだ成果をもとに支え合うわけなのでもう少し学習成果みたいな文言を入れるのも良いかもしれない。 一方で、あんまり難しい言葉にすると固くなる。 学びの成果をいかしたいいきいきとした地域づくり、イメージとしてはそういうイメージにしたほうが、下の方針3とも合うかもしれない。 文言までここで決めるのは難しいと思うので、検討事項にして意見がある人がいれば後ほど出してもらうようにする。 意見として出たのは、目指す姿をもう少し分かりやすく、イメージできる

	といいのではないかという意見。 現状で言わんとしていることも分かるし、これもすばらしいと思うのだが、より明確に、生涯学習のビジョンなので学びとの関係をうまく短い言葉にあらわしていくとよい。 良い文言が思いついた委員がいたら事務局のほうに連絡をしていただきたい。 それから御意見が出ていた右側の四角はどうするか。
大野委員	さっき御意見で出たように、3つの“わ”が重なったイラストが大きくなって入ってくると意味が分かりやすいと思うのだが、ちょっと四角だけでは分かりにくい気がする。
委員長	デザイン的なものもあるため、あるバージョンないバージョンや丸にするとか、あるいは他の方法など検討していただきたい。
副委員長	これは常にカラーであらわされるのか。白黒だったら分からなかいかもしれない。
事務局	プリントアウトしたものは渡さずにデータで表示する予定である。
委員長	例えば検討ついでに、輝くとだへの誰もが自分たちらしさを発揮し、いきいきとしているっていう文のいきいきとしているというのはどういう状態なのか。 ここの言葉をもう一度練り直してもいいかもしれない。 いきいきとした〇〇とか、いきいきとしているという文言が、ほかと比べて少し趣が違うかなと思ったので、ここの文章をもう一度検討していただきたい。
副委員長	これはみんながやっぱりみんなが輝くとだへの説明文みたいな、そういうイメージか。
事務局	そうである。 みんな輝くとだへ！だけだと分かりづらいと思い説明文も作成した。

委員	「いきいきとしている」の文言はやっぱり入っているほうがいいのか。 「誰もが自分らしさを発揮し」という文言をキャッチフレーズに持ってきて、みんな輝くとだへ等はどうか。
委員	もしくは「いきいきと」でとめてもいいかもしれない。
委員長	基本的なところはいいと思うのだが今言ったような意見があったので、少し検討頂いて、また委員の皆様も何かお気づきの点があったら、御意見頂くということでよろしいか。 では、キャッチフレーズ案については、「3 つの“わ”でみんな輝くとだへ学びの輪、市民の和、支えの環～」の案をこの会議で承認する。 続いて、2 点目 8 ページから 11 ページにある市の取組と具体例について、まず方針 1「学びや活動に挑戦してみる！」というところだが、市の取組としては、学びや活動に取り組むきっかけとなる場や機会を広げることや、様々な主体と連携協働することで、学びや活動の選択肢を広げ、自分に合った学びを選択可能とすること、また、市民の学び直しや学びの継続を支援するということとし、具体例では市民大学の内容や市民大学アーカイブズを立てている。これについて、それぞれの立場から何か御意見をいただきたい。 資料 1 の 3 ページ、具体的な取組についてというところと、それからその上の記述内容についてのところなど、このあたりの御意見を参考にさせていただきたいと思う。 私の意見としては、いわゆる社会的包摂というか、資料 1 の 3 のところに障害の有無や国籍性別に関係ないという点を強調していく必要があると思う。 市の取組に、明確に「誰もが」の内容を書いておけば、色々なところで事業を行うときに、いかされるのではないかな。 また、合理的配慮も必要なので、例えば合理的配慮という文言を入れてもいいかもしれない。学校教育などは大学も含めて合理的配慮は随分進んできていると思うのだが、社会教育の場面における学習ではどうか。 例えば公民館で、何らかの障害のある方が講座に参加しようと思っても参加できないとか、そういったところは改善していく必要もあるし、国の施策としても障害者の生涯学習が上がっている。

委員	そういったことも含めて本当に誰もがそういう学びにアクセスできるというところは必要だと思う。 視点としてはやはり「誰もが」というのはあって、実際に今までの講座とかを見ていると、参加が難しいのが多いかなというのは感じるところがあったので、わかりやすいというか、これだったら面白いかもと思えるものがより増えるとよいと感じる。そう感じる反面、それぞれのスキルとか経験を生かして講座をやってくださっているって意味では、その方々に合理的配慮っていうところを押しつけると、気軽に御自分の趣味とか経験を出してほしいという意味では、ある種足かせになるのではないかと感じることもある。 欲を言えばだが、提供してくださる方はもう本当に自分の好きなようにどんどんやってくださって、何かそこをサポートできる方がいると良い。様々な学ぶ人をサポートする。例えば外国の方だったらそこに通訳の方が気軽に入れるとか。障害の人だったら障害に合わせてちょっとした配慮をさっとできるヘルパーさんのような、そういう何かを組み合わせると色々なものが回っていきやすいのではないかなと思う。結果的に人が増えるのでお金とかいろんなものが絡んでくるとは思うが。
委員長	具体例に関しては、これはもう公民館講座などもあるし、できれば、教育委員会管轄のものだけではなくて保健所であるとか、環境とか、男女共同参画などの取組もあると思う。 他課がやっている事業に関しては書きにくいと思うが、教育委員会だけのものを具体例として示してしまうと、すごく矮小化されるので、そこは広く示していただきたい。 方針2のところだが、「市民同士ゆるやかにつながってみる！」10ページになるが、こちらはどうか。 市の取組としては学習情報提供、多世代のゆるやかな関係づくりの場を増やすことや、地域コミュニティに着目した事業の展開を促進し、他者や地域の機能を高め、サークルや団体活動団体の育成促進及び成果発信の拡大を行うことが挙げられている。 市の取組として今書かれているものに、プラスアルファであつたらいいなとか、あるいは今書かれていることに対して少し分からないこと等があれば伺う。

副委員長	他の委員がおっしゃった意見だが、ここでも学びを支援する活動、例えば外国の方から通訳を入れるという話があったが、そういう学びを支える活動を支援するようなことも必要という気がした。学ぶ人を支援するというイメージ。 そういう活動をする人もまた支援するという、少々変な言い方だが、そういうことも市のほうとしてできるのではないか。 学びを支える活動を支援することも必要である。 例えば、手話をやりたい人を養成する講座をつくるとか、手話、耳の不自由な方を支援する人をつくるとか、支援する講座を市の方が用意するとそのような活動も必要である。 ただ個人の学びだけをやるのではなく、個人で学びたいこと、そしてそれによってほかの人を助けられるような、つながりを持てるような活動の支援というイメージ。 学んでいる人同士のつながりというのも必要なので、それを支援する人のつながりっていうか、目指すっていうのも、市でしかできないことだと思う。
委員長	方針3に入れることもできると思う。 そういう、スキルを持った人を支援する。活用支援につながっていく。 今、手話の話が出たが、例えば戸田市では外国人に日本語を教えるボランティアがある。 それも学習なので、学びを支えるボランティアの要請と、スキルアップなどをどこかに入れるということだが、方針3でもいいのかもかもしれない。 それと全体的に、例えばネットワークを拡大するとか、関係づくりをするとか、そういうことが書かれているが、それを担う人材というのが、戸田市の場合はいるのかいないのか。 一つは教育委員会事務局に社会教育主事がいるし、今後社会教育士を様々なところで活用していくということもできるかと思う。 コーディネートする人材も必要である。 今までの施策としてそういうコーディネート人材、学校支援とか、地域学校協働活動だとコーディネーターがいる。 学校教育版だけではなくてもっと広くという手もコーディネート人材の

	ような、ネットワーク拡大と関係づくりという風になるためにはそういった地域人材を含めた、つながるための人材を作る。 コーディネート人材は書いてあったほうがいいと思うので、入れていただくと良いのかもしれない。 方針2の具体例は学習記録促進、活用促進とか、参加者同士の交流促進などがある。 具体例についてほかに何か思いつかれる方はいるか。 方針2の「市民同士でゆるやかにつながってみる！」ところの具体例だが、生涯学習フェスティバルのようなものも含めて何かいろんな方が交流できる機会とかがあると良いのではないか。
委員	市民体育祭のようなスポーツ関連のものも1例で出してみるのも良い。
委員長	文化やスポーツも生涯学習である。各講座においてと限定してしまうとすごく狭まってしまうので、色々な分野を例にして出すのも良い。
委員	公民館でもまつりの開催とか、いろんなサークルがそれに向けて一生懸命活動を行っている。 サークル活動やっている方はそれぞれの分野でも頑張っているのも、それはそれで交流ができていないのではないかなと思う。
委員	公民館まつりには、例えば吹奏楽部が演奏や、美術作品を掲示していただいていたというところで、現状としてもそういった交流はあるにはあるが、それ以外で市民の方の場となると難しい。学校等にはPTAなり学校応援団などもあるので、そういったところの市民の方との交流はあると思うのだが。 なかなか現状、中学生でいうと、テスト前に勉強でそこに行ったりなどはあるが交流となってくると難しい部分もある。
委員長	公民館まつりに参加するのも一つの交流でもあるし、地域によっては、例えば公民館だけで、スマートフォンの使い方を中学生などが高齢者の方に教える取り組みをしていたりするので、そういう学校と社会教育の連携協働で、学習者同士の交流を深めるようなので、広く、学習者同士の交流の促進することも重要である。

委員	我々はどうしても福祉のイメージが強くある。 先ほど出た手話の講座でいえば、社会福祉協議会が委託受けている手話通訳者事務所に、初級の教室、あと、通訳者養成講習会で専門的な対応を行っている。 社会福祉協議会のほうで登録している団体で手話通訳問題研究会というのがあって、一見勉強だけするところに見えるが、勉強以外にも、聞こえない人と聞こえる人をつなげる活動や、いろんなイベントの会場に出て、今聞こえない方はこういうことに困っているなど、人を募って、地域共生社会に向けた活動をしている。 この講座を受けたときに、活動につなげるというのは、我々も福祉の部分に着目してやっている。公民館の講座で、健康づくりとかそのような講座をやった後に、サークルがうまくできればいいのだが、公民館に収まるのではなく、それを地域まで出てっていうものを社会福祉協議会のほうとも、連携できるとよい。 健康づくりだと、健康長寿課のほうで生活支援体制整備事業というのをやっていて、地域の中で高齢者の方が集まれる場所をどんどんつくっていくということをやっている。 しかし、町会自治会に加入している世帯が 50%ぐらいって言われている中で、町会員でないとなかなか参加できない部分もあり、公民館を含め、場所をつくるっていうところでいうと、社会福祉協議会の事業ともすごくつながるのかなと考えている。
委員長	地域福祉との連携もまた大事なことと思う。 やはり市民にも、そうした色々なところとのつながりの中で、学びを通して社会をよくしていくことにつながる。
委員	現在、青少年団体の構成員が減っていたり、青少年が多忙であったり、生涯学習関連の講座であるとかそういったものに出て行く機会がなかなか持てないというのが現状だと思う。 講座の中に何か新しい学びとして参加しようという興味を持てるものがあるといいが、それとは逆で自分が所属している団体が何か協力できるような講座があったりとかしたら、そういったほうがもしかすると合唱団やスポーツ関係の講習会とかそういった団体で今度こういう講座をやるけ

	れども何か関連があることなので、一緒に講座に協力して貰えないかみたいな形のほうが、連携してやりやすいところもあるかもしれないなと思う。
委員長	ネットワークとかつながりとかいろいろあるが、今言ったような形をどう具現化するのかっていうところの、やっぱりこう仕掛けをつくっていかねければならなくてそれをどこがやるのか、そういったコーディネート的な話はどこかにうまく入れて頂けるとよい。
委員長	様々な御意見を出していただいたので、事務局は今日出た意見をビジョンの中に反映させていただきつつ、本日決定したキャッチフレーズや、市の取組具体例についての意見を参考に、今後進めていただきたい。 議事１は承認する。 続いて報告事項１について事務局より説明願う。
事務局	報告１ 令和７年度講座実施状況について説明。（報告）
委員長	報告１について、意見・質問等あるか。
委員全員	その他質疑等なし
委員長	先ほど事務局のほうから御説明頂いたとおり、御報告頂いたのは今年度の事業になるが、来年度の事業に向けての計画について、次回の社会教育委員会議で、委員の皆様から御意見を頂くということになっている。 これも社会教育計画を立案するということの一環ともとれるので、ぜひ、今回のこの講座等の成果を見ていただいて、来年度、こういったことが取り入れるといいのではないかなのような意見を次回いただければと思う。 報告１は承認する。 続いて報告事項２について事務局より説明願う。
事務局	報告事項２ 家庭教育支援動画について説明。（報告）

委員長	報告 2 について、意見・質問等あるか。
委員全員	その他質疑等なし
委員長	報告 2 は承認する。
	本日の全ての議事が終了したので、進行を事務局へお返しする。
事務局	次第 6 閉会 次回の会議は 11 月を予定している。 以上で令和 7 年度第 2 回戸田市社会教育委員会議を終了する。 閉会／午後 4 時 30 分